



リステラス星圏史略  
古資料ファイル 4-4  
『皇女戦記』（大地探索）

（発掘整理作業中）

霧樹里守 is 土岐真扉

『 (無題) 』 (@中二の冬、らしい☆)

---

『 (無題) 』 (@中二の冬、らしい☆)

2006年7月22日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#)

マーライシャ皇女の婚約者である西（モルナス）の王子クアロスは、ある日 ボルドムの一隊との小競り合いで危うい目にあって、マイと名乗る地球人に救われた。

腕を見込まれて城へ同行したマイは数年の間クアロスの片腕として（西方（モルナス）皇に、）仕えていたが、ある日不意に"一仕事片付け"に行ったきり長いこと戻らなかった。

クアロスは国を動かし  
ネイマスは作戦をたて  
そしてマデイルが  
道を切りひらくことに なるだろう。

—マデイルが皇女を送って国を出てから、雄輝たち一行に合流するまでに間がひらいたので、その間にクアロスがかなり近くまで来ていた。—

「王家の世つぎに気ままな恋は許されないわ。まして女神の直系であればなおのこと。平和な時であってさえ、一生かけて共に国を支えていくことのできる相手でなければ結婚を許されないのに、この動乱の時代に自由な恋などしてはいけないのよ……。」

「マーシャの婚約者だというのは本当か？」

「知らなかったのか。当然いとこ殿から聞いていると思っていたが……」

「マーシャを愛しているのか。」

「正直言って50年前に一枚の絵姿をもらった以外、ついこのあいだまで一面識もなしに過ごして来た。

だが幼ない頃から わたしの一生の相手はこの少女だと教えられて、朝に夕に絵姿ばかり見て育った。いつかわたしは眠られない夜などに少女が大人になった姿を……声や性格や、ちょっとしたしぐさまで 想像するようになった。

それはそのまま、わたしの理想、憧れの女性だった。

……恋を許されなかった少年時代、わたしは孤独に悩まされるたびに、その姫に会える日を思っ  
て耐えた。

それも、その後の皇女の行方不明で希望のない夢となり、人を恋する気持ちを無理に押さえ込んで  
いるうちにわたしは人から冷たい男と言われるようになってしまった……………。

.....モルナスの宮殿の奥深くで始めて皇女を見た瞬間  
子供の頃の夢がそのまま目の前に現われたのかと、あまりの  
まぶしさに 目もくらむ思いだった。」

(☆皇子クアロスと雄輝が窓辺で対峙するシーンの  
イラストがあるのですが、.....以下略..... (笑)。

- ◎ 「もうだめだわ。もうまったく目が見えないの。あなた一人で行って。そうすれば救かるわ。」
- 怒りとか悲しみとかそんな感情はありません。
- 心の中全部が雪に覆われて冷たく、真白になっていました。
- 「マーシャ。君は大事な事を忘れてるよ。」
- 彼は自分の背負い袋を投げ捨てました。
- 自分の分の食料と一緒に。
- そうしなければマーシャをかついで行くことができないからです。
- 「ぼくでなくて君が必要なんだよ、向こうでは。」
- マーシャはハッとして顔をあげました。
- そのマーシャの背に腕をまわしてそろそろと抱き起こしながら鋭はやさしく話し続けました。
- 「いったい君はこの向うに柔かいふとんと安息があると思っていたのかい？ そうじゃないんだよ。待っているのは飢えと恐怖だ。そして.....そこに仲間がいる。将来、君の民（たみ）となる人たちだよ。君の仲間だ。彼らが待っているのはぼくじゃない。君は戦いにゆくんだ。彼らを救うため。君の国を、ダレムアスを守るために。.....わかるかい。君はすでに彼らの皇なんだ。それを君は戦さにおもむく前からあきらめてしまうのかい。」
- 彼女の両腕を肩ごしにぐっと引き下げて、鋭は立ち上がりました。
- 激しい疲労のせいか予想以上に体が重く感じられます。
- .....ちきしょう！ 雄輝ほど力があれば.....!!
- 深い、雪の中を一步、また一步と踏みしめるようにして鋭は歩いて行きました。

「もう駄目……もう、まるで目が見えていないのよ。あなた一人で行って、鋭。そうすれば助かるわ」

怒り、とか悲しみとか、そんな細かな感情は既に存在しえなくなっていた。心の中全てが吹雪に覆われて、冷たく、真っ白になってしまっているのだ。

「マーシャ、大事な事を忘れてるよ」

鋭は自分の分の食糧もろとも背負い袋を雪の中に投げ捨てた。

さもなければ、弱り果てた彼の体力ではマーシャをかついで行く事ができそうになかったから。

「僕じゃない……君なんだよ。向うで必要とされているのは。」

マーシャはハツとして体を固くした。絶望の中で、確かにその事は失念していたのだ。彼女の背に腕をまわして用心深く抱き起しながら、鋭はマーシャが万が一にも眠り込んでしまわぬようにと辛抱強く話し続けた。

「いったい君はこの雪と風の向うに柔かい布団だの安息だのが待っているとでも思うのかい？

そうじゃないんだよ、待っているのは……そう、多分、飢えと恐怖。それだけだ。そして……そこに仲間がいる。将来 君が治め、守って行かなきゃならない人たちだよ、マーシャ。君の仲間だ。彼らが苦しい中で救いを求めて待ち望んでいるのは君をなんだ。君は今、闘いに行く途中なんだ。彼らを救うため、君の国を、ダレムアスを守るために……。

わかるかい、君はすでに彼らの皇なんだ。それを君は戦いにおもむく前からあきらめてしまうつもりなのかい」

マーシャは、ささえようとする鋭にあらがう事をやめてしまった。鋭は痛い所を突いたのだ。そう……これからの苦難を思えばいっそのまま眠りこんでしまった方が楽だという、病的な誘惑が、疲れ切った彼女の心の中に存在していなかったとは確かに言い切れなかった。

彼女の両腕を肩ごしにぐっと引き下げて、引きずるように背負いながら鋭はよろよろと立ち上がった。激しい疲労のせいか予想以上に体が重い。……ちきしょう！ 僕に雄輝ほどの力と上背があれば……!!

深い吹き溜りの雪の中を、一步、また一步と鋭は歩き始めた。

疲労困憊したこの体で、今また全ての食糧を捨ててしまった。

(もって、三日—今日一日だ。)

精神力だけではそれが限界だと鋭は感じた。だが、あと四日、あと四日歩きさえすれば人のいる里へ出られる筈なのである。歩けるだけ歩いて、その間に少しでもマーシャの回復を望めばいい。

.....後は、マーシャが.....。

.....そして、その後は、僕を.....。

おそろしい考えだが、別に怖いとは思わなかった。鋭が自分からそれを提案すれば、そして、「それ」が絶対に必要とあれば.....。

マーシャならば、するだろう。どんなことがあっても。

西の山脈には、再び激しく叩きつける吹雪が起ろうとしていた。

彼らは、まだ、地図がすりかえられたものである事に気がついていない.....。

2006年7月31日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#)

リッコヘ。

理事長に就任したとの報、聞きました。まずはおめでとう。大人しかったきみが、そういった組織に携さわることになっていたとは少なからぬ驚きだったけれど、たしかに僕はきみを覚えていました。よく気にいった本を貸してくれたりしてましたよねー給食の時間いっしょに食べましたよね。

もう大昔のことです。

きみが、キヨセ律子が、(ごめんなさい字を忘れました)、そちらの、代表としてこの大地世界を訪れたいと言っていると、マーシャ.....旧名、有澄真里砂.....から聞かされた時には、僕は、まだ小学生だったあのきみにもう一度会えるものだと一瞬なつかしく、それから、地球という世界における50年という歳月の意味を思い出して、おばさん(失礼!)になったきみを想像するのに苦労をしていました。ところが門を抜けて姿をあらわしたのは、ぼくの記憶にあるままの、頭に白いリボンをつけた女の子だったわけです。

(※>p.2.) きみの、息子さんの、お嬢さん.....孫、ですね、つまり.....タカハラのほうの律子、責任を持ってお預かりします。僕自身にかえても次の月踊の蝕には再び門の前へお返ししますので、安心して下さい。.....もともと、この手紙はその高原律子ちゃんへ託すわけですから、このノートが手元へ届いた時には、僕の言葉は実証されているわけですが。

それにしても、ほんとうにきみにそっくりです。僕自身がまだ少年と言って通る外見でいるうちに、かつての幼なじみに、僕の妹で通るまうなのようなとしの、孫がいるとは!!

.....かつて決裂の3マグチュアリ(大歴または上歴とでも訳せばいいでしょうか、1マグチュアリは約4000年にあたります。)の昔以来、相似た文化と文明を持っていたはずのダレムアス(大いなる母神ダーレム=大地、の世界ウアス)と地球(ティカーセル)(ころがる世界ティクス・ウワセル)が何故ここまで違ってしまったか。結論はここにつきるような気がします。

神を喪った地球の人類は、世代交代が早い!!

現代医学、なる術のすべてをつくしても僕がいたころの平均寿命の公称は男女とも80歳前後だったと思います。先進国の日本で、です。一方ダレムアスでは病気や事故で(ご存知の通りこれに近年は"戦争"が加わりますが)でなく200歳を迎える前に死

ぬ者というのは、ごく稀なのではないでしょうか。"統計" だの "戸籍調査" だのは、そもそも概念からしてありませんから正確かつ科学的なことは何も言えないのですが。つけ加えるならマルクウス（王族、つまりダレムアスにおける創世主、女神マリアンディアの子孫）の直系であるマーシャなどは、前例からして400年前後はかるく生きるのではないのでしょうか？

なにはともあれ、タカハラのほうの律子、責任をもってお預かりします。僕自身にかえても次の月踊の蝕には再び門の前へお返ししますので、安心して下さい……もっともこの手紙はその高原律子ちゃんへ託すわけですから、手元へ届いた時には僕の言葉は実証されているわけですが。

今日は見張り番の時間ですので、このへんで。

第二日、

孫のほうの律子嬢はよく眠れたようです。"リツコ" という音はダレムアスの言語体系にはなじみにくいもので、早速に愛称がつきました。"リーツ"。平野にいる小動物です。このあたりでは見られないようなので絵に描いて説明したところ、本人も気に入ってくれた様で、ふだん、口語で呼ぶときにはこれに接頭的美辞がついて"マリーツ" になります。

それにしても、そちらから律子=マリーツに託された"さし入れ"がこのノートと筆記用具だった、という事実！……あいかわらずの洞察力ですね。朝日ヶ森は。たしかにダレムアスには、紙の製法は知られていないわけではないのですが、あまり流布していません。街道をゆく隊商や一部の商人は和紙と不織布のあいこのようなものを帳簿として使っていますが、一般のダレムアトは"樹が泣く"と言って、そのような加工法を好みません。昔の日本画のように絹布をその都度洗いなおして使うか、木簡、石板、あるいは交易路ぞいではイムエレ樹の広葉。ダレムアスにおける文盲率はいたって低いのですが、おおむね、"すぐに消すものなら書く必要はない"式の、口頭伝達の方が好まれます。優れた記憶力であるからこそでしょう。

で、話は戻りますが、朝日ヶ森の洞察力と親切が、しっかり下心に裏打ちされたものであることも忘れていませんでしたよ、僕らは。どうせこちらに"物書きぐせ"があるの見込しての（ずい分長いあいだ忘れてましたが！）ことでしょう。それに、こちらの国内で広く保存・利用するには、シャーペン、消ゴム、安価な紙、という三種

の神器は、文明のレベルも文化の質も違いすぎるものですし。

暗黙裡の御要望通り情報入力の後、そちらの世界へお返し致します。

三者協議の結果、マーシャはダレムアスの代表たる女王の公文書として、ダレムアスの歴史（神話と）のあらましと現在の地誌、情勢、それらを含んだ対地球との関係をどうありたいと望んでいるか.....を、雄輝は將軍メイデリオの資格でもっぱら現在の対 "地球・ボルドム連合軍" 戦争の経緯を、そして僕は、あくまでも在地の地球人と七て僕ら3人自身のこと、こちらでの文化・生活など気づいた事をルポとして片はしから補足する.....という分担が決まりました。

まあ実際には、身辺雑記を兼ね、私信を兼ねているのは御覧の通りです。

なにしろ日本語で長文など書くのは数十年ぶり（たいていは3人で話す時にでもダレムアナロクです.....地球の言語類は、まあ "暗号" ですね）、間違いがいっぱいあると思います。

あと、残りのノートは3人協同で、ダレムアナロク<>日、英、の、簡易文法書と主要語辞書をあむことになるでしょう。出来上がりがいつになるかは判りませんが。

2006年7月21日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#)

- マーシャの婚約者 (いいなづけ) である西 (モルナス) の皇子クアロスは、ボルドムの一隊と小競りあいをしてユウキに救われた。ユウキは腕をみこまれて城へ同行し、しばらくクアロスの片腕として西方 (モルナス) 皇に仕えていたが、ある日不意に "一仕事片づけ" に行き、長いこと戻らなかった。
- クアロスは続べ  
ネイマスは読みとり  
そしてマデイルが 国を動かす
- 「王家の世つぎに気ままな恋は許されないわ。まして女神の直系であればなおのこと。平和な時であってさえ、一生かけて共に国を支えていくことのできる相手でなければ結婚を許されないのに、この動乱の時代に自由な恋などしてはいけないのよ……」
- 雄輝 > マダロ・シャサ > マイ
- 西方 (モルナス) 皇の長子クアロスは、幼ない頃にマーシャとの婚約を知らされ、一枚の絵姿を渡されて以来、人を愛することを禁じられたあまりに冷たい男といわれるようになった。心の底の熱情を執政や剣技に夢中になることで忘れようとし、それでもわびしさをまぎらわせなくなった時、絵姿からマーシャの大人になった姿……結婚後のことなどに思いをはせた。
- テメル (図解)。ダレムアスの竹琴の一つ。  
矢びらと兼用で、弓で弾いたり、指も使う。
- 朝日ヶ森の文系授業では、文学史の丸暗記など不可能。  
テストのたびに感想やら文章の引用ばかり出てくる。
- 鋭は反戦主義者。雄輝は『守備戦なら真っ先に飛び出すだろーな。』  
世論は「やられる前にやれ!!」的にマスコミがあおっている。

鋭「占領下でのレジスタンスならいくらでもやるさ。でも戦争は  
良くないよ。何があっても回避すべきだ。」

- エルシャムリア リーシェンソルト 科学・光の魔法  
ダレムアス マリアンドリーム 大地の魔法、その他不思議の力  
地球（ティケ） アスール 主として現代は科学  
ボルドム ダーギング 闇の魔法・科学
  
- 女剣士（ルワ・ブラダ） 女騎士（ルワ・ヘルマ）
  
- チビゴブリンのグルーニィ 赤っ毛、角、そばかす、  
大きな耳、コウモリの羽、
  
- マシカのイメージはエルフィンから
  
- 黒き銀髪 ..... 月の女神 レリナルディアム
  
- アガータ 曾祖母がティクト、赤いバサバサの髪、ソバカス、  
かなり器量良しであるが、ド口をぬってごまかしている。  
ボルドムント、意地っぱり、強情、  
"愛情" の存在を追いかけている。  
マーシャたちがとらわれた時、連行される前後に逃がす。  
(12~13ごろ)  
14歳になった時、だれもいないと思って顔のどろを  
落として水鏡に問いかけていると、酔っぱらいのごろ  
つきどもに見つかって、父親まで含めた15~6人もの男  
たちに強姦されてしまう。  
.....「もうおしまい.....鋭が好きだったのに。  
ボルドムントでも軽蔑しないって言ってくれたのに.....」  
一年たって、ただ一人の理解者だった母親も死に、  
生まれたばかりの子供とバラバラに父親の酒とバクチの  
ために奴隷として売りとばされる時、ダレムアスへ  
逃げようと決意する。  
  
「救われないわね.....」
  
- ダレムアスのマーシャたちの部分は鋭を中心に書くこと!!

○ マーシャは光線のかげんや気分によって髪と瞳の色が変化

○ 朝日ヶ森学園

○ 幼児部・小学部下等・小学部高等  
中等部・高等部・大学部・研究部 各三年。  
それぞれの建物が森の中にちらばっている。

○ 全寮制。

○ 年1回の、進級テストに失格すれば落第。  
三年1回の編入テストに失格すれば退学。

○ 定期試験にパスれば他校からの転入も可。

○ テスト科目は普通科目の他、心理テスト・スポーツなど。

○ 奨学制度あり。

○ 有澄真里砂 13歳（マーシャ・ダレムアス王女）

空想好きで機転がきく。スポーツ万能 読書好き。

部活動 陸上部

クラブ 演劇部

志望サークル 童話作家

（本人は知らないがダレムアスの王女）

○ 翼 雄輝 14歳

部活 陸上部

クラブ 工芸部

サークル 建築家

○ 清峰 鋭 13歳 IQ 150

部活 水泳  
クラブ 科学実験  
志望サークル 科学者  
真里砂と同級  
メガネはだてメガネ

- 女神ルマルウン 紫水晶の体。
- 鋭は転校生でマーシャの髪と生い立ちを知らなかったもので不用心にも聞きに行き、雄輝にはりとばされた。怒ったのはマーシャの方で雄輝にくってかかった。「知らなかったんじゃしかたないでしょう?!」
- マシカ 深緑色と朽葉色を混ぜたような髪  
星ヶ沼と同じ色の瞳
- 水面月の娘、危機王の世継・炎の皇女  
マーライシャ・マルライン・ダレムアス
- ・マーシャ は 真里砂 の愛称（ニックネーム）。
  - ・雄輝は陸上部の先輩
  - ・5kmのマラソンで跳び箱から暗黒の穴（ブラックホール）へ
  - ・妖精の国（フェアリーランド）。地球（テラ）じゃなく別次元らしい。
  - ・王女（プリンセス）マーシャ
  - ・作家志望であるマーシャ
  - ・マーシャが気づいた時、金色の髪に白い馬の体の女性と山羊足人（フォーン）、他二人。
  - ・かれ草色の袋三つと うす布のかかった銀のお盆  
「そのお盆の中味が夕食でないとしたら  
ぼくをまぬけだと思っていいよ！」
  - ・「開けたらドカーン!! なんてことにはならないだろうね」
  - ・雄輝の 袋： 黄金細工に海色の宝石の剣（青色のひも）
  - ・鋭の 袋： 黄金細工に森色の宝石の剣（絶色のひも）
  - ・真里砂の袋： 白銀に炎色の宝石の剣、銀鎖の方位磁石

それぞれにコップとお皿とスプーンと。

・「小人の細工物みたいだわ」老かしが「そのとおりじゃ」

「母さんが死んで あたいが売りとばされたら、生まれた  
ばかりのこの子は、だれが育てるんだい?!

親父がだれだろうと、この子はあたいの子なのに!!

どうしてさ! あたいたちはなんにもしてないのに どうして  
こんな目に あわなきゃ ならないのサ!?

ただ弱いってだけで こんな目に あうんなら  
ボルドムなんか なくなっちまえ!!

途中、再びとらわれていたマーシャとたまたま同じ牢に  
入れられ、猫目っ娘（ねこめっこ）の助けを借りて無事に脱出する。  
その後はキャラバンやあちこちのかくれがでマーシャの従女に  
なりながら、西方（モルナス）皇子マデイルに切りかかられたり  
しながら少しづつダレムアスの習慣を身につけていく……。

- 猫目っ娘（ねこめっこ） 真っ赤な肌、目の色は名の通り、髪赤。  
生まれてこのかた わずかに 腰に ポロをつけている  
以外、服を着たことはない。

「あたいは猫目っ娘。親なんざア知らないよ。  
別段あんたを すけたかったアわけじゃアない。  
ダレムアスが生きのころうがつぶれようが  
そんなことにゃ 興味ないが、戦争の方はもうちっと、  
続いてもらわにゃ 困るのさ。あたいたちが  
行動をおこすまで……。  
魔王をたおしてもうちっと ぐらしやすい国を  
つくるのさ」

- マーシャ・アリズミ  
出生不明の捨て子（アラビア、ギリシャ、エジプト、日本の混血児）12歳

あらすじ、ある時、マーシャの先生がいなくなった。

マーシャがなぞをとくため まほうのとびらをあける。  
そして、うまれこきょうダレムアスの ききを救う。  
もひとつ あらすじ、 ある日、ダレムアスに未知の国（ボルドム）  
がせめこみ、王・女王は殺され、マーシャの兄である王子も行方不明。  
1000年間生きていたといわれる長老はこのことを予知していて、  
あらかじめ ききを のりこえるために  
マーシャを地球へおくっておいたのだ。  
マーシャは長老の力によってダレムアスへ帰る。

○ オーク鬼の歌。

憎む 憎む 憎むう！  
オレらは憎むう  
悪しき者として オレらを造った  
大地を 天を  
神を!!  
オレらをさげすむ 全てのものを  
オレらを愛さぬ 大地を 天を  
したり顔して日のもと歩く  
人を 神を  
善なる者を!!

恨む 恨む 恨むウ!!  
オレらは 恨むウ！  
悪しき者なるオレらを造った  
オレらをこの世に産みだした者！  
愛さぬなら産むな  
さげすむなら造るな  
神を憎み 神に憎まれ  
愛なき者、それがオレだ！

恨む恨む 恨むう！  
オレらを産んだものを恨むう！  
陽のもと 火のそば 光の中を  
わがもの顔で 歩くもの

呪う 呪う 呪うう！  
オレらは呪うウ  
オレのからだを みにくさを  
オレのこころを 汚なさを  
オレら 自分で 自分を 呪うウ！  
オレらを造ったものを 呪うウ！

#### ひみつ日記

※ 世論は「やられる前にやれ!!」的にマスコミがあおってる。

.....シツコク繰り返しますが、この文章、書いたのは、  
私が12歳～14歳頃だった、30年位前、ですから..... (涙)

(T\_T)〃

※ マシカのイメージはエルフィンから  
>当時、初期FT作品を発表しはじめていた、  
中山星香氏のキャラのことだと思われます♪

イキナリ「魔法の宝剣」なんて一時的なネタが出てるのは、  
明らかに『三剣物語』の、影響下にあると思われます..... (笑)

※ 憎む、憎む .....

強姦ネタとか、神への怨嗟とか.....。  
我ながら、どー—————いう!! 中学生だったんでしょっか★

(T\_T)〃





赤字は皇及び女皇が死亡した場合の皇位継承順位、青字は西皇死亡の際のものである。

マルラインでは現皇から数えて5親等、モルナスでは太子から数えて3親等の者までにしか継承権が認められていない事が、かつての大休戦条約の際に定められており、

その他に、

- 1) マルラインはモルナス皇家の女性に対する継承権認定を極力控える。
- 2) モルナスは、原則として女性（マルラインの成員も含む）の皇位継承権を認めない。  
（ただし順延されている両皇家間の婚儀が成立した暁には、この大原則は全面撤廃のこと……が、マルライン側の絶対条件。これのおかげで話がまとまらないのである。）
- 3) 皇位継承者は言うまでもなく大地女神マリアンドリームの血を濃くうけつぐ者でなければならず、婚姻によって皇家に入った者にも直接的な継承権は認められない。  
（女皇（めのきみ）・男皇（おのきみ）には無論なれる）。
- 4) モルナス皇位を継ぐ者は皇妃腹以上の者に限り、またマルライン側に継承者を求める場合、妾腹（あまり考えられない事だが）でも母親の身分血統が正しければ嫡子と同等に扱う。  
（マルライン側はこの項承認せず）。

等々、種々雑多な問題が考慮に入れられる。上の例図は大異変の際の諸侯会議後、皇子マリセトウィットの誕生を口実に両皇家間で極秘のうちに更新されたものである。

初代王マルドリスタン

って.....。マーシャに「おとうと」がいたなんて設定、

すっかりアタマっから抜け落ちてるし..... (^◇^;) ”

「女帝」継承権問題だし.....☆☆

くりかえしますが、これ書いたの1980年代？ ですから!!

ちなみに私は、その頃からも、今現在も、日本国の天皇制には、

ゼッタイ反対!! の立場ですから!! (<でも女帝はOK♪)

リステラス星圏史略  
古資料ファイル 4-4  
(大地探索)

<http://p.booklog.jp/book/108654>

著者：霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/108654>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/108654>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ